

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

現在の職場の労働条件と労働環境についてうかがいます。

Q20

あなたが現在働く職場の労働条件・労働環境に、改善されるべき点はあるでしょうか。それはどのようなことでしょうか。あてはまるものすべてをお選びください。

(回答はいくつでも)

- ☐ 仕事の負担が大きすぎる(過重労働)
- ☐ 労働時間が長すぎる(長時間労働)
- ☐ 仕事単調だ
- ☐ 嫌がらせ(ハラスメント)が多い
- ☐ 不自然な姿勢での作業、繰り返し作業が多い
- ☐ 重量物(人を含む)を機械の補助などなしに扱う
- ☐ 強い光(紫外線・赤外線を含む)や音(騒音)に対する対策が不十分だ
- ☐ 危険な機械を安全に使うための対策が不十分だ
- ☐ 有害な化学物質を安全に扱うための対策が不十分だ
- ☐ ほこり(粉じん)に対する対策が不十分だ
- ☐ ヘルメット、マスク、手袋などの保護具が支給されていない
- ☐ 仕事に伴う危険について、事前の教育が不十分だ
- ☐ その他 具体的に:
- ☐ ひとつもない

次のページ

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q21 最も改善すべき点を1つ選んでください。

(回答は1つ)

※選択肢が1つしか表示されない場合は、その選択肢を選んで先にお進みください。

- ☐ 仕事の負担が大きすぎる(過重労働)
- ☐ 労働時間が長すぎる(長時間労働)
- ☐ 仕事単調だ
- ☐ 嫌がらせ(ハラスメント)が多い
- ☐ 不自然な姿勢での作業、繰り返し作業が多い
- ☐ 重量物(人を含む)を機械の補助などなしに扱う
- ☐ 強い光(紫外線・赤外線を含む)や音(騒音)に対する対策が不十分だ
- ☐ 危険な機械を安全に使うための対策が不十分だ
- ☐ 有害な化学物質を安全に扱うための対策が不十分だ
- ☐ ほこり(粉じん)に対する対策が不十分だ
- ☐ ヘルメット、マスク、手袋などの保護具が支給されていない
- ☐ 仕事に伴う危険について、事前の教育が不十分だ
- ☐ その他 %q20x[13]%%

次のページ

0% 100%

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q22	過去1年間、1か月当たりの労働時間のおおよその平均をお答えください。
------------	------------------------------------

(回答は半角数字で入力)

※一週間の労働時間の算出法は、勤務時間8時30分～17時30分で昼食休憩1時間だと、8時間/日、週5日勤務だと約40時間/週、ひと月あたり160時間になります。

時間/月 (残業時間を含む)

Q23	また、その内の残業のおおよその平均をお答えください。
------------	----------------------------

(回答は半角数字で入力)

時間/月

Q24	過去1年間、通勤時間のおおよその平均をお答えください。
------------	-----------------------------

(回答は半角数字で入力)

分 (片道でお答えください)

次のページ

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

健康状態についてうかがいます。

Q25 あなたの現在の健康状態はどうですか。あてはまるものを1つお選びください。

(回答は1つ)

- ☐ 非常に健康である
- ☐ まあ健康である
- ☐ 健康であるとも不調であるともいえない
- ☐ やや不調である
- ☐ 非常に不調である

Q26 あなたは将来の自分の健康状態に、不安を持っていますか。あてはまるものを1つお選びください。

(回答は1つ)

- ☐ 不安を持っている
- ☐ 少し不安を持っている
- ☐ 不安は持っていない

次のページ

※ このアンケートは、前のページに戻ることはできません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

あなた自身やご家族のことについてうかがいます。

Q27

あなたの性別をお答えください。

(回答は1つ)

☐ 男性

☐ 女性

Q28

あなたの年齢をお答えください。

(回答は半角数字で入力)

才

Q29

あなたは結婚されていますか。

(回答は1つ)

☐ 独身

☐ 既婚

☐ その他(離別、死別)

次のページ

0% 100%

※ このアンケートは、前のページに戻る事ができません。ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

Q30 あなたと一緒に暮らしているお子さんは何人ですか。

(回答は半角数字で入力)

※(一緒に暮らしている)お子さんがいない方は、「0」人とお答えください。

人

Q31 あなたの喫煙についてうかがいます。あてはまるものを1つお選びください。

(回答は1つ)

- ☐ 喫煙している
- ☐ 以前まで喫煙していた
- ☐ 喫煙したことがない

Q32 あなたの飲酒についてうかがいます。あてはまるものを1つお選びください。

(回答は1つ)

- ☐ お酒を習慣的に飲んでいる
- ☐ お酒を習慣的ではないが飲んでいる
- ☐ お酒を全く飲まない

次のページ

平成 22 年度厚生労働科学研究費労働安全総合研究事業
「非正規雇用の一典型としての外国人労働者における労災・職業病リスクの解明と
参加型手法による予防対策の確立」(H21-労働一般-005 主任：毛利一平)
分担研究報告書

外国人労働者・非正規労働者の労災・職業病予防のための
ケーススタディ支援ツール群・教育プログラム開発に関する研究(2年目)

分担研究者 吉川 徹 財団法人労働科学研究所国際協力センター

研究要旨：本研究は非正規労働者の一典型としての外国人労働者に焦点を当て、その労災・職業病リスク低減のためのケーススタディ支援ツール群および教育プログラム開発のための基礎的資料の収集・分析を目的とした。本年度は、現場で実効性のある対策を立案できる労災・職業病予防の研修・トレーニングプログラム開発のため、参加型トレーニング手法を用いた NGO 支援（労働組合）による参加型職場改善研修、外国人と共同での研修プログラムを開発、他業種で利用できるツールの開発を行った。具体的には、①ステークホルダーによるトレーニングの開催：札幌で労働組合員を対象としたトレーニングを開催し、外国人労働者支援のプログラム案を完成させた。②外国語によるトレーニングツール検証として、2011 年 2 月に四日市で日韓参加型産業安全保健トレーニングワークショップを開催した。協力研究者と共同で、韓国人の研究者による言語チェック、トレーニング実施後の評価の協力を得た。外国人も日本人と一緒に、トレーニングに参加することで、安全衛生への理解が促進することが確認された。③外国人労働者の雇用が予想されるサービス業における労災・職業病予防チェックリスト開発を行った。多様なトレーニングツールが蓄積され、実施の経験も積みあがってきた。来年度は、これらのツールを活用した現場への普及と浸透の課題を検討する。

研究協力者

小木和孝（財団法人労働科学研究所研究部・主管研究員）
松浦俊一（北海道勤労者安全衛生センター・事務局長）
高橋悦子（四日市看護医療大学）
仲尾豊樹（東京労働安全衛生センター）
真家生和生（大妻女子大学）

A. 研究目的

外国人労働者が安心して安全に健康的に労働生活を営むことの重要性が国際社会における重要な課題となっている。特に、日本では経済のグローバル化とともに、インド、中国などの新興工業国からの外国人労働者が近年増加し、外国籍をもつ労働者が日本社会での労働生活を営むための様々な課題に関心が高まっている（久永 2007、吉川 2007a-c）。

一方、わが国では一部の外国人労働者が、労働安全衛生上課題の多い脆弱な労働者集団と考えられ、特に、多くの場合非正規雇用として扱われている場合には、雇用の不安定さ、コミュニケーションの問題、医療・福祉サービスへの近接性の問題等、就労にあたっての雇用継続、安全健康の確保には多くの課題が指摘されている（中元 2007）。これまで、外国人労働者の健康支援に必要な課題

として、久永は出稼ぎ・移住労働者の安全衛生は、多数の国が関わる課題であり、日本の課題としては、国際協力、労働者の実状把握、安全衛生対策の充実、日本語習得支援等が重要と指摘している（久永 2007）。日本産業衛生学会労働衛生国際協力会でも 2007 年に本課題が取り上げられ、第 24 回研究会の参加者 40 名による討議の結果、緊急的課題として、1)企業内良好事例の交流、2)職場内交流の場を増やす、3)産業保健スタッフが自事業場の現状を知る、4)事業主への教育、5)不明確な実習生・研修生制度の廃止・見直し、6)国別外国人組織・支援 NPO の強化、7)労働衛生国際協力研究会の活性化、8)学会活動でケースレポートなど取り上げる、9)移住労働者の健康安全に関する情報の共有化などが指摘された。長期的課題としては、1)受け入れシステム・法整備：移住労働者受け入れシステムの整備、研修生制度の廃止、最低労働条件の改善、労働に関する法整備、補償・保障制度の利用、健康保険への加入、2)現場改善課題：作業手順の整備・安全教育の必須化、対策良好事例・良好雇用企業の紹介、3)ネットワーク化と情報共有：情報公開、支援組織・行政とのネットワーク強化、相手国との協調、ハローワークなど行政とのネットワークが重要と指摘されている。

本研究では、これまでの先行研究から指摘され

ている非正規労働者の一典型としての外国人労働者の労災・職業病支援のうち、特に、その労災・職業病リスク低減のためのケーススタディ支援ツール群・教育プログラム開発のための基礎的資料の収集と整理を目的に研究を実施した。平成 21 年度の研究では、協力研究者の助言を得て、(1) 文献等による労災・職業病予防教育プログラム作成に重要な警鐘的事例(Sentinel case)の抽出と整理、(2) 現場で実効性のある対策を立案できる労災・職業病予防の研修・トレーニングプログラムに必要な研修要素の検討、(3) 国際潮流を視野に入れた外国人労働者支援、小規模事業場における安全衛生活動の進め方に関する基礎的情報収集の 3 つの研究を実施した。本年度は、プログラム開発のために、1) 良好事例の収集と解析(担当 吉川)、2) 支援プログラムと必要なツール群と支援プログラムの開発(担当 吉川・毛利)を行った。

B. 研究方法

1) 良好事例の収集と解析(担当 吉川)

前年度の調査を土台として、外国人労働者の労災・職業病発生の管理に成功している企業の事例を収集する。当該企業を訪問し、経営者、労働者に対するヒアリングおよびグループワークにより、成功につながっている要因を抽出する。

2) 支援プログラムと必要なツール群の開発(担当 吉川・毛利)

平成 21 年度の成果に基づき、支援プログラムに必要なツール群、すなわちチェックリスト、マニュアル、トレーニングプログラムを開発する。外国人労働者をめぐる課題は、広く生活の場を視野に含める必要があるため、外国人労働者とその家族、同僚、経営者、地域住民、自治体関係者等をターゲットにしたツールとプログラムの開発を行った。特に、建設作業員向けのトレーニングを韓国と日本との多職種で開発する過程を通じて、外国人労働者支援のための取り組みを整理した。

C. 研究結果

1) 良好事例の収集と解析(担当 吉川)、

上記研究遂行のため、2010 年 4 月～11 月に本年の研究準備を行い以下の計画を進めた。昨年度の研究結果から、本年度は 1) 外国人労働者の労災・職業病対策を進める際のステークホルダーを通じたトレーニングプログラムとツールキットの開発、2) 日本語一と外国語の双方を利用したトレーニングツールの見直し、3) 今後、外国人労働・非正規労働雇用が進む可能性のあるサービス業における労災・職業病予防のためのチェックリスト開発を進めることとした。

2) 支援プログラムと必要なツール群と支援プログラムの開発(担当 吉川・毛利)

①ステークホルダーによるトレーニングの開催

2010 年 12 月 10 日～12 月 11 日に札幌で労働組合員を対象としたトレーニングを開催した。実施にあたっては北海道勤労者安全衛生センターの協力を得た。

②外国語によるトレーニングツール検証

2011 年 2 月 18 日～19 日に四日市で日韓参加型産業安全保健トレーニングワークショップを開催した。協力研究者として韓国人の研究者による言語チェック、トレーニング実施後の評価の協力を得た。

日韓産業保健トレーニングワークショップ組織委員会を作り、内容を検討した。

表 1 日韓産業保健トレーニングワークショップ概要

1. 研修概要

1) 目的: ①日韓両国の参加型産業安全保健活動の良好実践事例の交流を行うこと

②現場に活用できる参加型のトレーニングツールを協同して開発する

2) 期間: 2011 年 2 月 18 日(金)～19 日(土)

3) 主催: 日韓参加型産業保健トレーニングワークショップ組織委員会

4) 共催: 日本産業衛生学会労働衛生国際協力研究会、みえメディカルバレー研究会産業看護学研究会

5) 後援: 四日市看護医療大学、四日市地域政策研究機構産業看護研究センター、東京労働安全衛生センター、労働科学研究所

6) 場所: 四日市看護医療大学、ワークショップを開催するにあたり必要な部屋 2 室

① 4～5 グループでグループワークができるスペースと机・椅子がある部屋 1 室

② 休憩やティーブレイクができる部屋 1 室(机・椅子)

7) 参加者: 40 名予定(日本側 20 名、韓国側 20 名) 国内の参加者募集は産業保健専門職、研究者、教育者から広く公募する。韓国の参加者募集は、韓国側の組織委員会メンバーが中心に行う。

8) 研修スケジュール

2 月 17 日(木) 中部国際空港→四日市市(近鉄四日市駅付近のホテル)へ高速バスにて移動

2 月 18 日(金)

1. 開会式

2. オリエンテーション

①全体スケジュール

②チェックリスト演習について

③アクションチェックリストの使い方

3. 事業場訪問(建設企業): 良好事例収集

2 グループに分けて、1 グループが会社・1 グループが建設現場にわかれそれぞれチェックリストを活用しながら現場の良好事例を収集する。その後、訪問職場をチェンジして全員が両方の職場を訪問し、良好事例を収集する。

4. グループワーク①：訪問事業場の印象 良好点と改善点について

5. 基調講演 小木和孝氏（労働科学研究所）
「小規模職場の参加型改善によるグッドプラクティスの特徴と支援方法」

6. グループワーク②：トレーニングキット作成、プレゼンテーションの準備

7. 良好写真コンテスト

【必要な機器】プロジェクター1～2台、パソコン1～2台、スクリーン（または壁を使って映写）、書画カメラ（なければプロジェクターorOHPを使用）

2月19日（土）

1. リキャップ：1日目の振り返り

2. トレーニングキット発表（4～5グループ×20分）

3. アクションチェックリスト投票

4. グループワーク③：発表に対する良好点と改善点

5. 日韓参加型産業安全保健活動成果発表会（日韓から2題ずつ計4題発表）

6. グループワーク④：良好実践事例のレビュー条件と収集方法・発信方法

7. ワークショップの総括

8. 優秀発表賞の表彰

9. 閉会式

【必要な機器】プロジェクター1～2台、パソコン1～2台、スクリーン（または壁を使って映写）、書画カメラ（なければプロジェクターorOHPを使用）

9) 組織委員会構成、日本側：小木和孝（労働科学研究所）、河野啓子（四日市看護医療大学）、仲尾豊樹（東京労働安全衛生センター）、吉川徹（労働科学研究所）、高橋悦子（四日市看護医療大学）、武澤千尋（東京工科大学）

韓国側：ROH Jae Hoon（延世大学）、Myung-Sook Lee（大韓産業保健協会）、WOO Kuck Hyeun（順天郷大学亀尾病院）、JUNG Moon Hee（漢陽大学）、他2名

なお、ワークショップには外国人労働者数名の参加もあり、共同で研修に参加した。成果を資料1-1～1-6として添付した。

③サービス業における労災・職業病予防チェックリスト開発

2010年12月26日～27日の2日間、内外の専

門家による集中討議により、ヒューマンケアワークにおける職場改善チェックリスト開発を行った。本取り組みは人類動態学会の取り組みと合同で実施した。

表2 ヒューマンケアワークのための人間工学チェックポイント開発会議

2010年12月26-27日、国際文化会館、港区

- ・ Project title:
 - Development of Ergonomic Checkpoints in Human Care Work
- ・ Duration:
 - October 2010 - December 2011
- ・ Coordinator:
 - Working Group on Ergonomic Checkpoints in Human Care Work within the Human Ergology Society, an Affiliated Society of the International Ergonomics Association (IEA)
- ・ Objective:
 - As a contribution to the Ergonomic Checkpoints Series of the IEA, Ergonomic Checkpoints in Human Care Work will be developed for review by the IEA and subsequent publication as one of the Ergonomic Checkpoints Series
- ・ Output:
 - Draft Ergonomic Checkpoints in Human Care Work containing a consolidated action checklist, checkpoints describing the rationales and improvement options for improving human care work with illustrations
- ・ Finance:
 - The expenses for organizing the Working Group and preparing the whole draft including illustrations will be borne by the HES
 - MHLW, Japan (Toru Yoshikawa, Ippei Mouri)
- ・ Format: Each checkpoint describes:
 - Why/Risks/symptoms/How/Some more hints/Points to remember/Illustrations
- ・ Contents:
 - A total of 60 checkpoints will comprise the following sections:

- ・ Planning of human care work
 - Working time arrangements
 - Work load and working methods
 - Work environment
 - Social support and welfare facilities
 - Teamwork and work organization
- ・ Annexes: The following annexes will be prepared:
 - Practical hints for using Ergonomic Checkpoints in Human Care Work
 - An example of Human Care Workplace Checklist
 - Sample programmes for organizing training workshop

<第1日目 12/26>

1. 良好写真の分類
2. チェックポイント領域の項目の洗い出し
3. チェックポイントの解説ページの構成の検討
4. 各領域のアクションの列挙とグループ分け

<第2日目 12/27>

5. リスク/症状のワードのチェック
6. 人間工学C P (第2版) からのヒューマンケアワーク応用項目選定
7. 領域と項目の洗い出し
8. 最終成果: 10 領域、60 項目

これらの成果をまとめたものを添付資料1-7とした。

なお、上記の研究遂行のため、予算執行上の事由で当初予定していた6月宇都宮、8月横浜の学会出席・及び情報収集は関しては本年度を実施しなかった。ほか、本課題に関連して、ベトナムにおけるトレーニング開発なども来年度の研修資料に必要と考えられた(研究成果1)。

E. 結論

本研究は非正規労働者の一典型としての外国人労働者に焦点を当て、その労災・職業病リスク低減のためのケーススタディ支援ツール群および教育プログラム開発のための基礎的資料の収集・分析を目的とした。本年度は、昨年土現場で実効性のある対策を立案できる労災・職業病予防の研修・トレーニングプログラム開発のため(1)参加型トレーニング手法を用いたNGO支援(労働組合)による参加型職場改善研修のプログラムを開発した。具体的には、①ステークホルダーによるトレーニングの開催:札幌で労働組合員を対象

としたトレーニングを開催し、外国人労働者支援のプログラム案を完成させた。②外国語によるトレーニングツール検証として、2011年2月に四日市で日韓参加型産業安全保健トレーニングワークショップを開催した。協力研究者として韓国人の研究者による言語チェック、トレーニング実施後の評価の協力を得た。③外国人労働者の雇用が予想されるサービス業における労災・職業病予防チェックリスト開発を行った。これらのツールを活用して、来年度は、現場への普及と浸透の課題を検討する。

F. 健康危機情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文・記事発表

- 1) 石丸知宏, 吉川 徹.. ベトナムの大企業/多国籍企業における安全衛生ワークショップ. 労働の科学 2011:66(4)44-49.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

I. 引用文献リスト

- 1) 久永直見. 日本・韓国・マレーシア・フィリピンで起きていること. 産衛誌. 2007:49(3):110.
- 2) 吉川徹、井谷徹、大久保利晃、岸田考弥、小木和孝、城内博、久永直見、毛利一平. 外国からの移住・出稼ぎ労働者の労働と健康支援のための緊急的な課題/長期的な課題. 産衛誌. 2007:49(3):111. (2007a)
- 3) 中元健吾、吉川徹. 外国からの移住、出稼ぎ労働者の労働と健康 ～第80回日本産業衛生学会労働衛生国際協力研究会第25回研究会参加報告～. 労働の科学. 2007; 62(9):44-50.
- 4) 吉川徹. 移住労働者の労働と健康に関する国内的課題、国際的課題. 日本産業衛生学会第17回産業医・産業看護全国協議会、講演集. 2007;p88. (2007b)
- 5) 吉川徹. 学会だより、日本産業衛生学会労働

衛生国際協力研究会：外国からの移住、出稼ぎ労働者の労働と健康．労働科学．
2007:83(1):35-36. (2007c)

J. 添付資料

(添付資料1) 日韓ワークショップトレーニング
スケジュール

(添付資料2) 建設作業員向けトレーニング
チェックリスト (WISCON、日本語)

(添付資料3) 建設作業員向けトレーニング
チェックリスト (WISCON、韓国語)

(添付資料4) 中小企業サポート講義資料、
日本語

(添付資料5) 中小企業サポート講義資料、
韓国語

(添付資料6) 建設現場トレーニング資料、
日本語

(添付資料7) ヒューマンケアワーク
チェックポイント開発

The 3rd JAPAN-KOREA PAOT Workshop on Occupational Safety and Health

Aim:

1. Exchange Japan and Korea experience regarding participatory action-oriented training on occupational safety and health.
2. Develop utility new training-kits for the visited company in cooperation with Japanese and Korean participants.

Date: February 18-20, 2011

Venue: Yokkaichi Nursing and Medical Care University (Yokkaichi-city)

1200 Kayou-cho, Yokkaichi-city, 512-8045, Mie, JAPAN

TEL +81-59-340-0700/ FAX +81-59-361-1401

Hotel: LOISIR HOTEL YOKKAICHI

7-3, Nishi-Shinchi, Yokkaichi-shi, Mie, 510-0087

TEL +81-59-352-0300 / FAX +81-59-353-0133

<http://www.solarehotels.com/english/loisir/hotel-yokkaichi/guestroom/detail.html>

Schedule:

Thursday, February 17

11:00 Arrived at Chubu Centrair International Airport

12:30-14:00 Move to Yokkaichi by Highway Bus

14:00-14:20 Check in the hotel, Loisir hotel Yokkaichi

14:20-15:15 Lunch

15:15-16:30 Culture experiences, Japanese tea ceremony in Shisui-an

16:30-18:00 Free

18:00- Pre-gathering in Roubai-an, Japanese SOBA dinner

Friday, February 18

08:15 Departure at Hotel			
08:45-09:00 Registration			
09:00-09:10 Opening ceremony (Ms.Takahashi and Dr.Lee)			
09:10-09:30 Orientation			
Whole schedule, allocation of task (Ms.Takahashi)			
How to use action checklist (Dr.Park)			
09:30-10:00 Introduction of DAISO CONSTRUCTION Co.,Ltd.			
10:00-12:30 Worksite visit (DAISO CONSTRUCTION Co.,Ltd.)			
Team A		Team B	
10:00-10:20 (20min)	Move to the head office	10:00-10:15 (15min)	Move to construction site
10:20-11:10 (50min)	Visit the head office	10:15-11:05 (50min)	Visit construction site
11:10-11:25 (15min)	Move to construction site	11:05-11:20 (15min)	Move to the head office
11:25-12:15 (50min)	Visit construction site	11:20-12:10 (50min)	Visit the head office
12:15-12:30 (15min)	Go back to the venue	12:10-12:30 (20min)	Go back to the venue
12:30-13:30 Lunch			
13:30-14:15 Group work 1: impression of the visited company (Mr.Nakao)			
14:15-15:00 Keynote speech and group work 2: Dr.Kazutaka Kogi			
How to support good practices in participatory improvement of small and medium-sized enterprises			
15:15-17:30 Group work 3: Developing training kits and preparing presentation (Mr.Nakao)			
17:40-18:10 Exercise session by voluntary health supporters in Yokkaichi			
18:20 Leaving			
19:00 Welcome dinner in LOISIR HOTEL YOKKAICHI			

Saturday, February 19

08:20 Departure at Hotel	
09:00-09:10 Recap of the first day (Ms.Takezawa and Dr.Park)	
09:10-10:50 Group Presentation (Ms.Gotoh and Prof.Woo)	
10:50-11:15 Tea break & Post-it voting of action checklist contents (Ms.Takahashi)	
11:15-12:00 Group work 4: evaluation of group presentations (Mr.Nakao)	
12:00-13:00 Lunch	
13:00-14:30 Asia work health forum (Prof.Kono and Dr.Lee)	
Presentation 15min (including translation) Discussion 5 min	
Theme "Limitation"	
J-1 Prof. Naomi Hisanaga	
K-1 Mr. Myung Woo Bae	
J-2 Ms. Chihiro Takezawa	
K-2 Dr. Kuck Hyeun Woo	

14:30-14:45 Tea break & Japan-Korea Good practice photo contest (Ms.Takahashi)
14:45-15:30 Group work 5 : Common characteristics of good practices
15:30-16:30 Closing ceremony (Dr.Kogi and Prof.Roh)
 Comments and achievement workshop
 Awards of good presentations
 Group photos
17:00 Leaving
17:50 Arrive at Yunoyama-onsen
18:30 or 19:00 Dinner party (Japanese style)

Sunday, February 20

8:00 Breakfast
9:00 Departure
11:00-14:00 Sightseeing tour to Ise
 13:00-14:00 Lunch time
15:30 Arrive at Nagisa airport line high speed boat
16:00-16:40 arrive at Chubu Centrair International Airport

ACTION CHECKLIST

SMALL CONSTRUCTION SITES

WISCON

WORK IMPROVEMENT IN SMALL CONSTRUCTION SITES

このチェックリストの使い方

1. チェックを始める前に、チェックリストに目を通し、その作業場では労働者がどのように働いているか観察します。
2. 各項目を注意深く読みます。その項目の提案が当てはまるかどうか見ます。
もしそれが既に行われていたり、不必要と思われる場合は「この改善を提案しますか？」の下の「いいえ」にチェックを付けます。もしその提案を行うべきだと思う場合は「はい」にチェックをします。「備考」には良いと思われる点、または改善提案をできるだけ具体的に書き留めてください。
3. 全ての項目にチェックが終わったら、「はい」にチェックをした項目をもう一度見ます。そのうち重要と思われる項目をいくつか選んで「優先」にチェックを付けます。
4. チェックリストにある項目以外でも良い点、改善提案を見つけたら余白に書き留めて下さい。

2011年2月18日-19日

第3回日韓参加型産業保健トレーニングワークショップ

四日市看護医療大学（三重県四日市市）

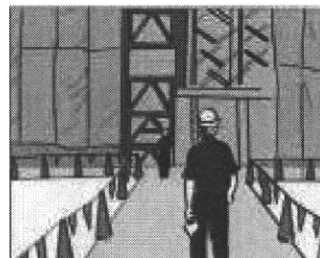
A. ものの運搬と保管

1. 移動しやすい通路を確保し、明示します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

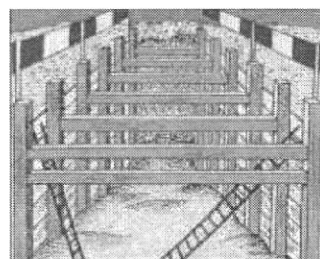


2. 開口部は確実にフェンスで囲い、墜落防止を徹底します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

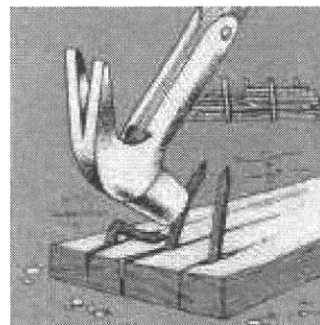


3. 材木から出ている釘は取り除きます。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

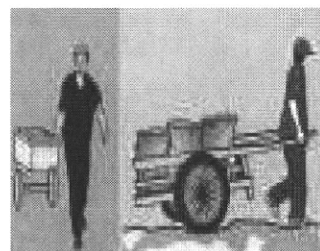


4. 移動には、用途に合った台車を使います。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

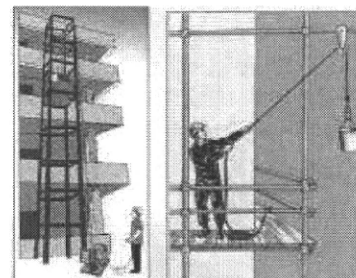


5. 重量物の移動には、リフター・ホイスト・コンベヤーなどの装置を使います。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____



6. 作業場に多段型の収納棚や収納ラックを設けます。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

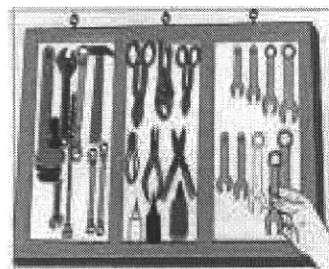


7. それぞれの工具には、決められた保管場所を設けます。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____



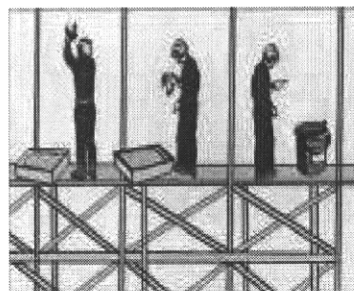
B. 高所作業

8. 過度な不可を避けるために足場の上に平等に資材を分配します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

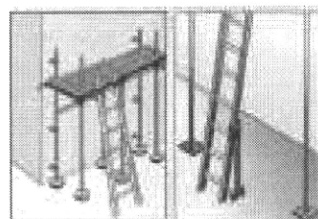


9. 短時間の使用であっても、はしごは固定します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

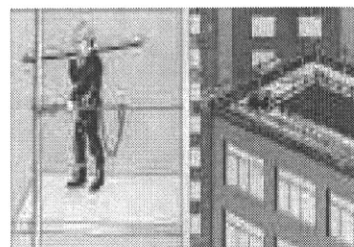


10. 屋根や高所での作業では安全なラインを uses。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

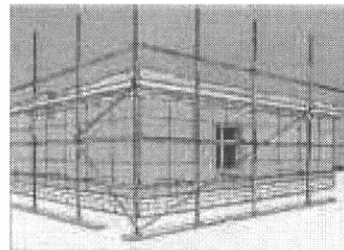


11. よい背もたれつきの適切な高さのイスを備えます。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

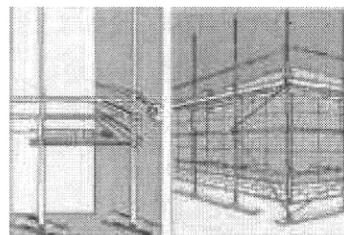


12. 表示・操作盤が、容易に識別できるようにラベルをつけ、色分けします。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

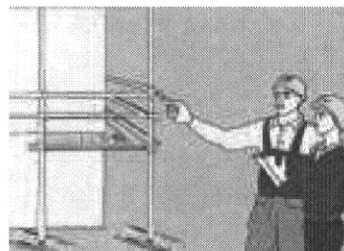


13. 足場は少なくとも週に一度、強風や悪天候の後には常に、有資格者が点検します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

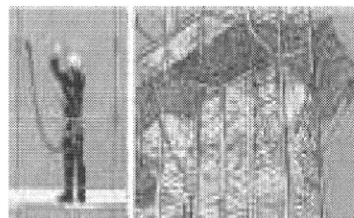


14. 高所作業では安全ベルトやネットを設置します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____



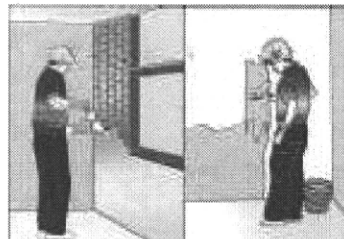
C. 作業姿勢

15. ひじの高さで作業できるように、作業面の高さを調節します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

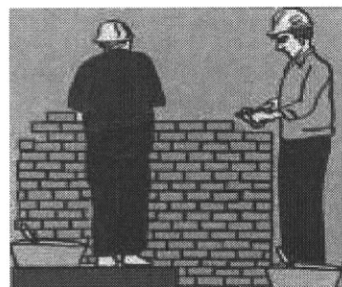


16. 小柄な人には足台を、大柄の人には補助台を用いるようにします。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

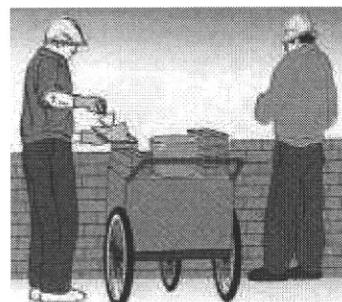


17. よく使う材料、工具、操作盤は手の届く範囲に置きます。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

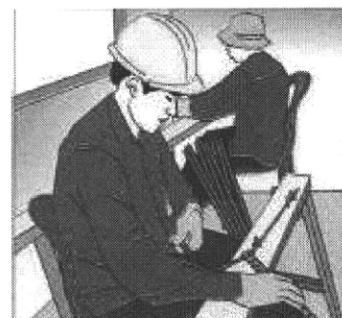


18. 座って作業をする労働者には、背もたれつきで床に足が楽につく適切な高さの椅子を用意します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

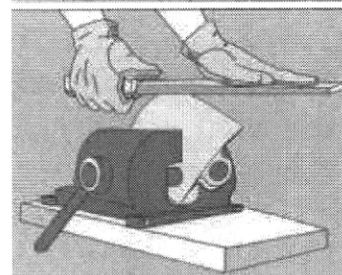


19. 作業する時は、治具、留め金、万力あるいはその他の固定器具を使用します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____



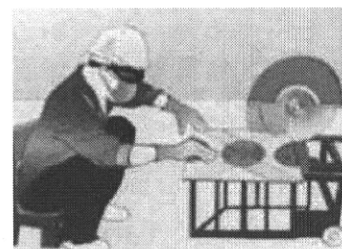
D. 機械安全

20. 歯車やチェーン駆動部、シャフトが突き出ている箇所など、機械の危険な部分には適切なガードを取り付けます。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ_____

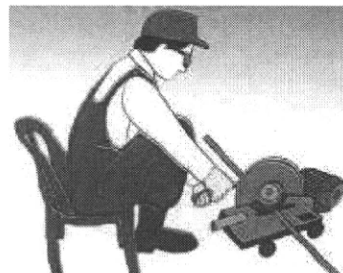


21. 機械作動時に作業者の手やその他の身体部分が巻き込まれないように、安全装置を使います。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

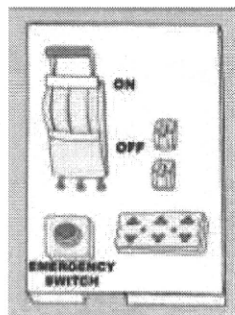


22. 機械の操作盤はその作業場の人々が容易に識別できる言語で表示します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

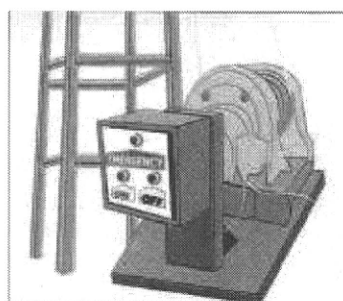


23. 非常停止スイッチは、はっきり見やすいように表示します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

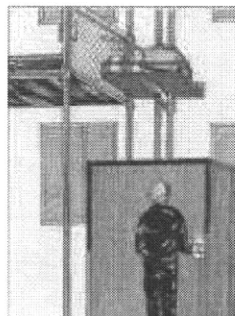


24. 吊上ロープ式の昇降機やクレーン、その他の建設装備は毎日使う前に点検します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____



E. 物理的環境

25. 夜間作業者と暗い場所で作業する作業者のために適切な照明を提供します。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ ☐ はい ☐ 優先

メモ _____

